

令和5年12月定例会一般質問

通告3

質問 人口減少対策と男女共同参画社会の実現をめざして

答弁 女性が活躍しやすいまちにつながるよう対応してまいります

まつむら やすひろ
18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。このたびは2点の一般質問を準備いたしました。

1点目でございます。人口減少対策と男女共同参画社会の実現をめざして質問いたします。

10月15日、経済センターにおいて、男女共同参画に関する講演会に参加いたしました。その冒頭において町長の御挨拶がありましたが、それは目から鱗と申しましょうか。折に触れ、こうしたら良いのではないかと、ああしたら良いのではないかと様々に思いを巡らせ、結論を導き出せないでいるテーマに対して、町長がいつも軽々と解を提示された瞬間でありました。

町長はこう述べられました。我が町が直面している人口減少、特に札幌に行ったっきり帰って来られない若い女性たちに対する呼びかけの最も有効な手段は、我が町に男女共同参画を実現して、女性がのびのびと生きやすくなる地域社会を実現することが早道なのではないだろうかという問題提起でございました。

我が町の人口減少は全国のそれと同様の推移を経て今日に至っておりますが、私はこの原因について、中標津における顕著たる原因があるように思えて、委員会の席上、コンサルタントによる入念な調査を要望し、その結果の回答は、札幌に行ったっきり帰って来ない適齢期の女性の存在が顕著であるとのことで、これは担当部局にも衝撃を与え、今日の町の戦略的課題に位置付けられるとともに、これに対処する方法を私も日夜考えてまいりました。

ふるさとに対する思いや年老いた両親に寄せる思い、誕生日を迎えた彼女たちに対して御両親の協力を得て、ふるさと納税のお礼物のようなギフトとともに、町長の手紙を送らせていただくという方法はどんなものだろうかとか、様々なことを発想するのですが、確たるレベルには達していないと感じておりました。そこに町長の男女共同参画に係る講演



会における、あの御挨拶でございます。目から鱗が落ちた思いでございます。

現在の庁舎内で女性の部長は皆無であります。男女共同参画の視点からは3人はいるべきなのです。一方で会計年度職員の比率は、圧倒的に女性の比率が高いのではないのでしょうか。どうしてこうなるのでしょうか。

本年、道外視察で広島県府中町を訪ねました。対応していただいた管理職は女性でした。彼女いわく、係長職の頃に実母による虐待により子どもが死亡する事件があり、それを防ぐことが出来なかったことの強い自責の念が残り、二度とそのような悲しい出来事を起こさないために、町民福祉、子ども子育ての現場はどうあるか模索してきた。新しい予知の方法にも挑戦したことなどを語っていただきました。子育ての中核、ネウボラふちゅうは、そして今日のような活動形態をつくり上げてきたのだと実感したところでありましたが、実際問題として、日本の社会にあって子育ての大半を担う女性がキャリアを積み上げていくのはとても大変なことだと思います。

しかし一方で、それを支える機能を自治体や地域社会がしっかりと果たせたとすれば、それはきっと多くの志を胸に秘めた女性たちを支え、この地において子育てを成して生きていこうと思っていただけになるのではないのでしょうか。その成果が民間企業や様々な組織に普及していく、役場の人事はその先鞭を示す必要があると痛感いたします。

そこでこの際、事務方のトップである副町長、あの講演会の会場にも来られていましたが、どうお考えになるか、まずはお聞きいたします。

【答弁：副町長】

松村議員御質問の人口減少対策と男女共同参画社会の実現を目指してについて御答弁を申し上げます。

議員の質問、また、まちづくり町民会議の町長挨拶の中でありましたように、本町の人口は年々減少しており、若年層、特に15歳から24歳の女性の転出が多い状況にあります。主に進学での転出が多く、卒業後、本町に戻ってくるケースは男性に比べ女性は少ない状況であると認識しております。

このことは人口減少対策を進める上で極めて重要な課題でありますことから、総合戦略の中で女性の社会参加の促進を特化対策の一つとして設定しておりますが、女性のみならず、男女がお互いを尊重し合い社会のあらゆる分野で個性と能力を十分に発揮し活躍できる男女共同参画社会推進の取組は、重要な施策であると考えているところでございます。

中標津町職員における男女比の現状ですが、町立病院職員を除く令和5年4月1日現在時点の正職員の内訳は男性63%、女性37%、会計年度任用職員においては任用期限の定

めがある中で、勤務時間が短時間であるなど、その特殊性から女性の応募が多いこともあり、男性 16%、女性 84%となっております。全体では男性 45%、女性 55%という状況です。男女共同参画社会の実現という観点で、職員の女性登用については非常に重要であると認識しております。

また、女性をはじめとする多様な人材の登用は、バランスの取れた質の高い行政サービスの実現にもつながるものであり、その採用及び配置につきましては性別に関係なく、職員個人の能力、適性、経験を基に組織全体として適正で公正なものでなければならず、その結果が町民サービスや満足度の向上につながるものと考えております。

現状部長職の女性職員はおりませんが、管理職に占める女性職員の割合は 18%と、前年度より 6%増加しているところであります。また、係長、主査職におきましては、31%が女性職員であり、前年度比 2%の増となっております。職員の管理職や係長、主査職への登用にあたっては、能力の適正な評価によることが基本と考えているところでございます。

これまでも意欲と能力のある女性職員を課長職のほか、参事や部長職に登用してきたところでありますが、女性管理職の登用は町の姿勢を伝える上でも重要な取組であることをこれまで以上に意識しつつ、今後におきましても、職員個々の職務経験や能力を踏まえた登用を行いたいと考えておりますので、御理解賜りますようお願いを申し上げます。

【質問：松村 康弘 議員】

18 番、松村康弘でございます。副町長から事務方のトップとして前向きな御判断、姿勢を示していただいたと思います。この問題をこうやって一般質問の台に上げるに当たって、私も様々に調査をいたしました。その中で、ぜひとも町長にお聞きしていただいて、なおかつ、決意を述べていただきたいことがございます。

現在、我々のこの議場におけるやりとりは、全庁舎の中に音声で伝わっておりますけれども、部長職とか、そのような管理職に就任することを求められる女性たちにおいて、過去にそのことを辞退されるケースが、ある一定程度あったようにお聞きしました。子ども子育ての状況や両親の介護など女性にかかる負担はすごく大きいのですけれども、しながら一方で、今この男女共同参画の実現というのは、単に役場職員お一人お一人の問題ではなくて、中標津町の未来を左右するような新しい価値が見えているところでございます。その意味においては、女性にそのような打診があった場合に、必ず受けてやっていけるというサポートを行政としてしっかり考える、そういう今求められているのではないかと思います。

町長、この辺について、これから登用していく女性に、それらの手当てがしっかり出来ていけるんだという、そういう思いの決意表明をしていただけないでしょうか。

【答弁：町長】

松村議員の質問にお答え申し上げます。

先ほども副町長から答弁申しましたとおり、人口減少、それから町の、うちの町だけではもちろんないんでありますけれども、地方における女性と男性のバランスの差とは、やはりその町に女性が残るだけの要素、やっぱり不足しているというような状況が原因でありますから、そういったものをなるべく少なくしてせつかく大学に行った女性ですね、しっかりとこの町に帰って来れるような体制づくりっていうのは本当に重要だと思っております。そのために町が何をしなくてはいけないかというのは、一つは当然、役場の環境の整備でございます。

また、御質問にありました女性特有の過去からのいろんなしがらみでございますけども、これは役場だけではなくてですね、町全体、また日本の全体の問題かもしれません。そういったことも含めて国の方では、例えば育児休業を男性も含めてしっかり取ろうというような対策がなされております。これはもう一致するところでありますので、そういったしがらみのないようにしっかりしていくという体制づくりは非常に重要だと思いますし、これは町の男女共同参画の機会も持ちながらですね、しっかりと普及をしていきたいというふうに思っております。

そのことが、結果的には女性が非常に活躍しやすいまち、そしてそのことが基ですね、しっかりと御夫婦ができ上がったり子どもが増えるような要素にもつながるものではないかというふうに私は思っておりますので、今後ともしっかりとですね、対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

質問 計根別かぼちゃプロジェクトを多くの町民に見てもらうための取組みを
答弁 関係者のご意見をお聞きします

まつむら やすひろ
18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。2点目の質問、計根別かぼちゃプロジェクトを多くの町民に見てもらうための取組を提案いたします。

10月の最終日、31日夜、私は計根別のメインストリートをゆっくり虹別側まで行き折り返して来ます。実行委員会のメンバーが軽四輪のトラックでかぼちゃのランタンが風に吹き消えそうになったり電池がなくなりかけたものの面倒をみています。暗闇の中で道沿いのプランターに置かれたかぼちゃのランタンの灯りが夜風に揺れているようで、とても不思議な世界に誘ってくれます。夜の計根別のメインストリート、ほとんど歩いている人影はありません。けれど、これだけの規模のイベントに成長させた計根別の皆さんの努力、農業高校と計根別学園の生徒児童の皆さんのたゆまぬ食育への精進、そこに思いを寄せるとき、この取組をもっと多くの人々に見てもらいたいと私は思いました。

しかるに、この計根別市街の住民の皆さんの取組は、ほとんど中標津市街地の町民に知られていません。秋の恵みを感謝してみんなで楽しむお祭り、地域の子どものこの試みと、それを応援する大人たちのつつまじやかな取組は、ハロウィンでごった返す東京渋谷の有様と明らかに違うものでありますが、一方でこの取組は、地域の人々の心を奮い立たせ幸せな気持ちに導く、町おこしのスタート地点に立っているように思えます。

この質問を通告した後に、農水省による農山漁村の活性化に取り組む優良事例を表彰するディスカバー農山村、村の宝で中標津農業高校が優良賞に輝いたことが報道されましたが、農業を学ぶ生徒が子供たちへの食育を行い、農作物栽培やイベント開催などを手がけたことが高く評価されたとのことですが、私はこのかぼちゃフェスティバルがもっと中標津市街の住民の参加があれば最高賞にだって届いたのではないかと、一人思いを巡らすこととなりました。

かぼちゃプロジェクトを多くの町民に広く知ってもらうために、町としても広報などについて協力体制を構築すべきではないでしょうか。来年のハロウィンに向けて、たくさんの中標津市街の町民を計根別市街に送り込むことは出来ないものかと考えます。そのためにはシャトルバスの運行とかも視野に入ってまいります。

10月の末の夜風はほの冷たく、メインストリートをせつせと歩くにはアルコールの協力も必要です。工夫次第によっては全国から泊りがけで参加者を募れるような試みになるのではないかと申し上げ、2点目の質問といたします。

【答弁：町長】

松村議員御質問の計根別かぼちゃプロジェクトを多くの町民に見ってもらうための取組をについて御答弁申し上げます。

平成30年度から取組が始まったかぼちゃランタン事業は、町民主体の景観まちづくり団体、みんなの景観中標津プロジェクト、通称みんなかと呼んでおりますが、その活動の

一環で計根別地域の有志が中心となり、まちに愛着や誇りを持つ次の世代を育てるには、幅広い世代が楽しみながら関わるきっかけづくりや、子どもたちの計根別への愛着の醸成を図るために、地域からのアイデアで発案され活動が開始されました。

今年で6年目となります本事業は、もともと町の景観計画の策定がきっかけとなっていることから、町としても事業の立ち上げ当初から協力をしてきました。これまでも計根別地域では、農業高校生の生徒が計根別学園や計根別幼稚園の児童、園児に対して食農教育が行われていたり、学校と町内会、企業、団体が地域の行事など様々な場面で連携協力されていることもあり、かぼちゃランタン事業も地域全体の積極的な取組によって実施されてきました。かぼちゃの栽培に当たっては、春の苗植えから秋の収穫までの一連の作業について、農業高校生が児童、園児の指導役を務め、夏の間は地域の人たちが畑の管理を担当しています。

また、大切に育てたかぼちゃで作るランタンづくりは、今では子どもから大人まで100人以上が集う大きなイベントとなり、今年は岩谷学園の留学生や外国人技能実習生が多数参加し、プロのカービングパフォーマーによる実演が行われるなど年々活動が充実しています。事業の最後には、ハロウィンの時期に合わせてかぼちゃランタンを計根別の沿道に飾り、まちを明るく彩る取組が行われておりますが、地域全体で事業の成果を感じることができる重要な場面となっています。

本事業は度々新聞やテレビなどで取上げられ、各方面からも高い評価を受けているところですが、事業の参加者からも、景観を整える意識が高まった、恵まれている環境に気づくことができた、事業に関わる人々の姿勢がふるさとを大事にする喜びにつながったなどの意見が寄せられておりますので、当初の目的であります計根別への愛着の醸成に着実に結びついていると感じています。

本事業については、協働のまちづくりの先進的な取組と捉えておりますので、引き続き、行政としても協力していきたいと考えておりますが、何よりも事業に取り組まれるみんなかのメンバーや計根別地域の方々の想いが重要と考えておりますので、今回、議員より御指摘のありましたかぼちゃランタン事業を多くの町民に知っていただくための協力体制の構築や、計根別市街にたくさんの人々を招く取組などについて、関係者の御意見をお聞きしたいと考えておりますので、御理解賜りますようお願いいたします。